

YAMAHA

PORTATONE

ガイドブック
取扱説明書

PSR-36

このたびはヤマハポータートーンPSR-36をお買上げいただき誠にありがとうございました。

ありがとうございます



これだけは読んでおきましょう

ポータートーンを使い始める前に、下の（取扱上の注意）と次のページの（ポータートーン早わかり）だけは読んでおきましょう。ポータートーンを使いこなすための基本です。

お読みになったあとは

大切に保管して、わからないことが出てきたら、もう一度ご覧ください。

音楽を楽しむためのエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変に気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量に心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

〈取扱上の注意〉

①こんな所には置かないでください。

- 暖房器具のそばや日中の車内など、極端に温度が高い場所。
- 湿気の多い場所。

②こんな所ではお使いにならないでください。

- テレビやラジオをつけている時に、そのすぐ近くではお使いにならないでください。

③無理な力を加えないでください。

- 落としたり、上に座ったりしないでください。
- ボタンやスイッチなどに、無理な力を加えないでください。

④使用後は

- 必ずパワースイッチを切ってください。
- 長い間使わない時は電池を抜いておいてください。
- 電源アダプターを使用している場合も、使わない時はコンセントから抜いてください。

⑤お手入れは

- 柔らかい布でカラ拭きしてください。
- 汚れがひどいときは、少し湿らせた布で拭いてください。
- アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- 塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合がありますので注意。

もくじ

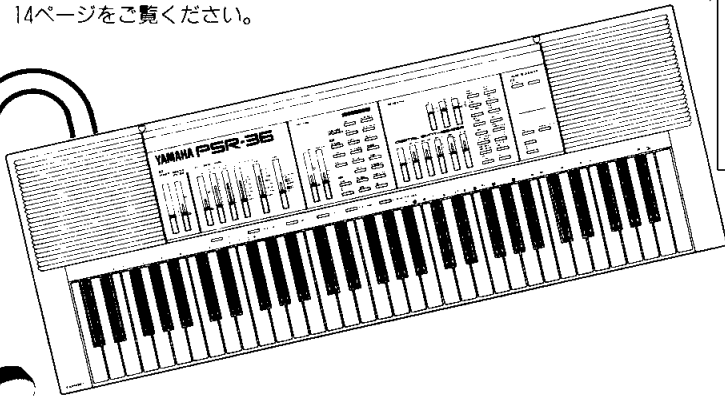
	ページ
ポータートーン早わかり	1
I. オーケストラ	4
II. リズム	6
III. カスタムドラマー	7
IV. オートベースコード	9
・「ラブ・ミー・テンダー」	10
・「青い影」/「輝きながら」	11
・コード早見表	12
V. コードシーケンサー	13
■MIDIについて	14
■LET'S PLAY	16
・「好きにならずにいられない」	16
■リズムパターンの実例	18
■故障と誤りやすい現象	19
■仕様とオプション	20
■MIDIインプリメンテーションチャート	21

ポータトーン早わかり



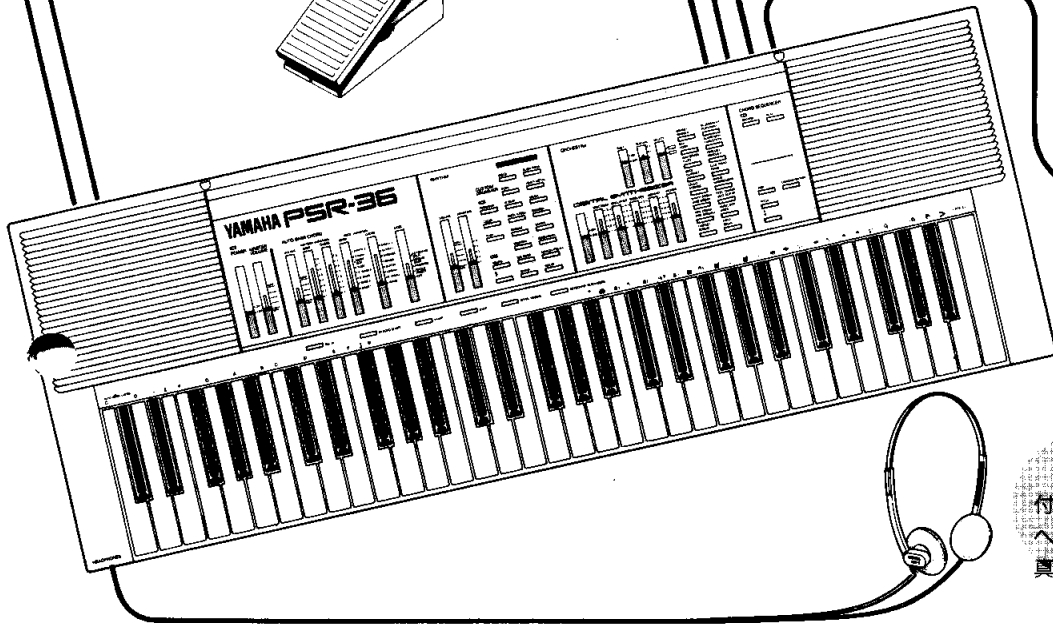
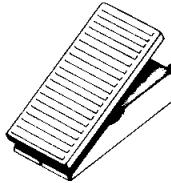
MIDIでグレードアップ

MIDIは楽器のインターフェース。
いろんな楽しいことができます。
詳しくは、
14ページをご覧ください。



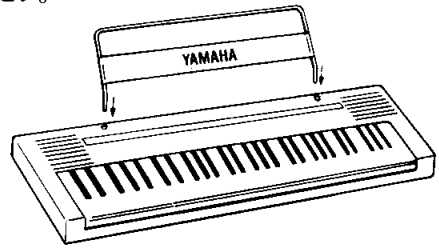
★ エクスプレッションペダルを使ってみよう!

付属端子の IEXP. PEDAL にエクスプレッションペダルのプラグを差し込みます。足で自由に音量を調節できます。



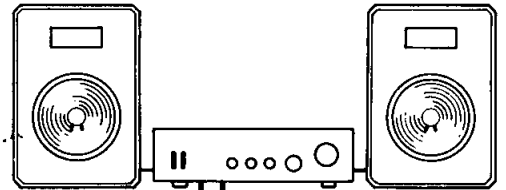
● 譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、楽器の上にある2つの穴にその両端をさしこんでご使用ください。



★ 外部スピーカーで迫力のプレイ

PSR-36のAUX OUT端子とアンプなどのオーディオ入力端子を別売の接続コードで接続すると、大音量で迫力のプレイが楽しめます。

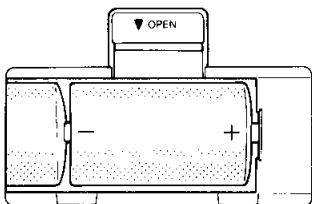


付属品の電源アダプター (PA-4) を背面のDC (9-12V) INに接続します。

付属端子の「HEADPHONES」に、ヘッドホンのプラグをさしこんで使えば、真夜中のプレイもOK!

● 電池の入れ方

まず、本体裏面にあるケースカバーをはずし、単一乾電池を+-を間違わないように入れます。
電池が少なくなると、音が歪んだり、誤動作をする場合があります。このような場合は、すべて新しい電池と交換してください。

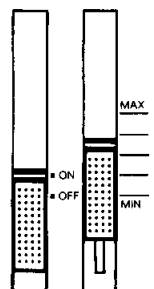


● 音を出す準備

電源の準備が終わったら、音を出す準備をしてください。

1. パワースイッチON。
2. マスターボリュームを鍵盤を弾きながら適度のレベルまで上げます。

POWER MASTER VOLUME



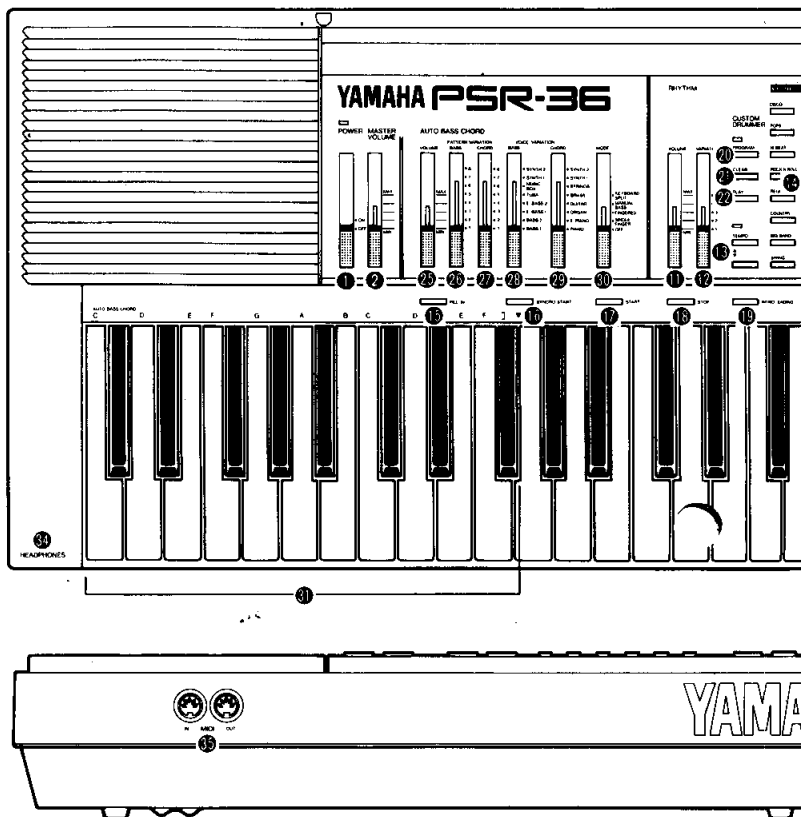
各部の名称とはたらき

●自動伴奏にトライノ→9ページ

- ⑩のモードセレクターでシングルフィンガーをセット。
- ⑤のオートベースコードボリュームをまん中位セット。
- ⑭のリズムセレクターでリズムを選んだら、⑮のシンクロスタートを押します。
- オートベースコード用鍵盤をひとつ押してみましょう。
*伴奏を止めたい時は、リズムの⑰のストップを押します。

●オリジナルのリズムパターンに挑戦→7ページ

- ⑭のリズムセレクターでリズムを選びます。
- ⑳のプログラムのボタンをON。
リズムが鳴りだします。
- ㉑のクリアを押すとリズムが消えて、メトロノーム音が鳴り出します。
- ㉒のキーボードパーカッション用鍵盤を叩き、パターンを入力します。
- 完成したら、⑰のストップを押してプログラム終了。
- ㉓のプレイを押して、つくったパターンを聴いてみましょう。



〈全体のコントロール〉

- ①パワースイッチ／パイロットランプ
電源を入れるスイッチ。電気が通じていればパイロットランプが点灯。
- ②マスターボリューム
全体の音量を調節するレバー。
- ③ピッチコントロール →3ページ
音量を微調整するためのボタン。
- ④MIDI →14ページ
このボタンを押しながら各種のMIDIモードの設定をおこないます。
- ⑤デモンストレーション →3ページ
このボタンを押すとデモンストレーション曲を聴くことができます。

〈オーケストラ〉→4ページ

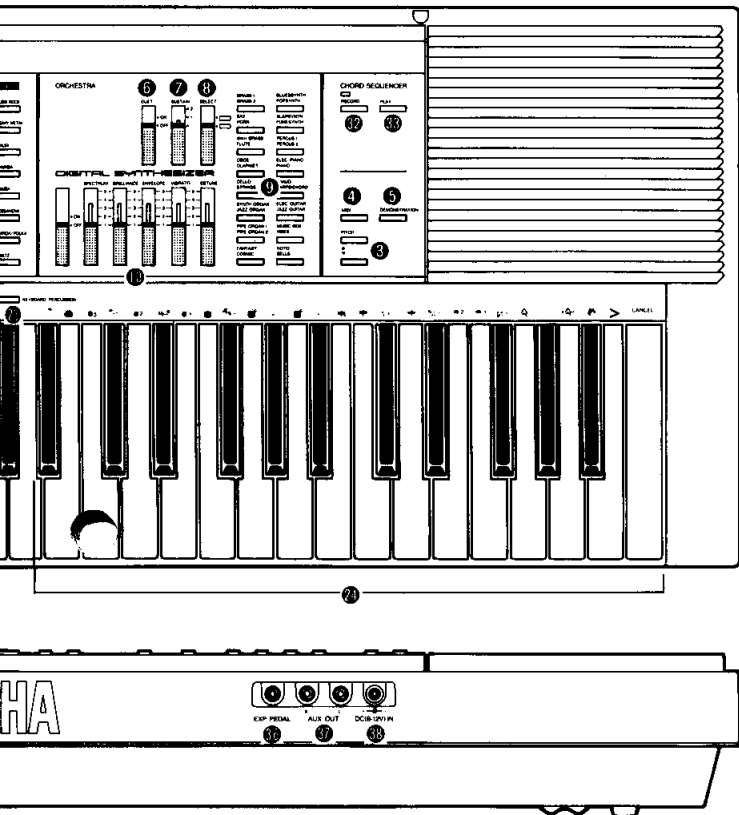
- ⑥デュエット（オートベースコード使用時のみ）
メロディーにハーモニーを加えて、厚みのあるサウンドをつくるスイッチ。
- ⑦サステイン
オーケストラ音色に自然な余韻をつけるスイッチ。
- ⑧音色セレクトスイッチ
音色セレクターの音色の上下を選択するスイッチ。
- ⑨音色セレクター
音色の種類を選ぶボタン。
- ⑩デジタルシンセサイザー部
選んだオーケストラ音色を各種のはたらきをするレバーで加工することができます。→5ページ

〈リズム〉→6ページ

- ⑪リズムボリューム
リズムの音量を調節するレバー。
- ⑫リズムバリエーション
リズムのパターンを変えるレバー。
- ⑬テンポコントロール／テンポランプ
リズムのテンポを調節するレバー。テンポランプで早さを確認します。
- ⑭リズムセレクター
リズムの種類を選ぶボタン。
- ⑮フィルイン
リズムが鳴っている時、このボタンを押すとリズムが一時的に変化します。
- ⑯シンクロスタート
このボタンを押すとリズムスタンバイとなり、オートベース用鍵盤を弾けばリズムがスタート。
- ⑰スタート
リズムをスタートさせるボタン。
- ⑱ストップ
リズムをストップさせるボタン。
- ⑲イントロ／エンディング
イントロパターンでリズムをスタートさせたり、エンディングパターンでリズムをストップさせたりするボタン。

〈カスタムドラマー〉→7ページ

- ⑳プログラム／プログラムランプ
オリジナルのリズムをプログラムする時に押すボタン。スタンバイの状態になるとプログラムランプが点灯。
- ㉑クリア
リズムパターンを消す時に押すボタン。
- ㉒プレイ
プログラムされたリズムを演奏させる時に押すボタン。
- ㉓キーボードパーカッション
鍵盤から打楽器音を出すためのボタン。カスタムドラマープログラム時は、自動的にこのモードになります。
- ㉔キーボードパーカッション用鍵盤
カスタムドラマーやソロでキーボードパーカッションを使う時の鍵盤で、それぞれ鍵盤の上に描かれた打楽器音を出すことができます。



●リズムを鳴らしましょう。→6ページ

1. ⑭で好きなリズムを選びましょう。
2. ⑪のリズムボリュームをまん中位にセット。
3. ⑰のスタートを押します。
*音が鳴りだしたら、⑬のテンポを調節します。
*リズムを止めたい時は⑱のストップを押します。

●音色をかえてみましょう。→4ページ

1. ⑤の音色セクターで好みの音色を選んでください。
*⑥の音色セレクトスイッチは、下げると音色セクターの下段に表示されている音色を出すことができます。
2. 好みに応じて、⑦のサステインまたは⑩のデジタルシンセサイザ一部で、音色を加工してみましょう。
*②⑥のデュエットはオートベースコード使用時のみに有効です。

●コード進行を記録・再生させましょう。→13ページ

1. オートベースコードのセッティングをおこなってください。
2. ⑳のレコードをON。
3. ㉑のオートベースコード用鍵盤を押してレコードをスタートします。
4. ㉒のレコードを再びONして止めます。
5. ㉓のプレイをON。㉑のスタートで再生します。止める時は、㉔のストップを押します。

〈オートベースコード〉→9ページ

- ⑤オートベースコードボリューム
自動伴奏のボリュームを調節するレバー。
- ⑥ベースパターンバリエーション
自動伴奏のベースのパターンを変えるレバー。
- ⑦コードパターンバリエーション
伴奏のコードのパターンを変えるレバー。
- ⑧スボイスバリエーション
自動伴奏のベース音色を変えるレバー。
- ⑨コードボイスバリエーション
自動伴奏のコード音色を変えるレバー。
- ⑩モードセクター
自動伴奏のやり方を選ぶレバー。
- ⑪オートベースコード用鍵盤
自動伴奏をするときに、伴奏用に切り替えられる鍵盤。

〈コードシーケンサー〉→13ページ

- ㉑レコード
コード進行を記憶させる時に押すボタン。
- ㉒プレイ
コード進行を再生させる時に押すボタン。

〈付属端子〉→1ページ

- ㉔HEADPHONES端子
ヘッドホンの接続端子。
- ㉕MIDI (IN OUT) 端子
MIDI信号の入出力端子。
- ㉖EXP. PEDAL端子
エクスプレッションペダルを接続する端子。
- ㉗AUX. (R. L) OUT端子
オーディオ信号を出力するための端子。
- ㉘DC (9-12V) IN端子
電源アダプターPA-4を接続する端子。

●ピッチコントロール

チューニングしたい人は、鍵盤を押えながら、③の▲か▼のボタンを押します。

▲・・・音程を上げるとき

▼・・・音程を下げるとき

2つ同時に押すと、元の音程 (A₃=440Hz) に戻ります。変化幅は、±50セント。一回押すたびに約3.4セント変わりますので、15回以上押しても音程は変わりません。ご注意ください。

■電源のON時は、ノーマルにセットされます。

●デモンストレーション

⑤のボタンを押すと、自動演奏が鳴りだします。止めたい時は、再び⑤のボタンを押すか、⑱のリズムのストップを押してください。

I. オーケストラ

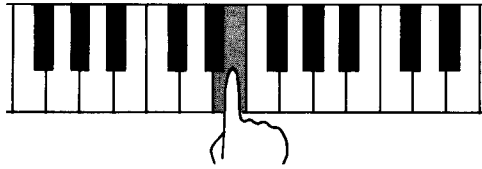
まずは音色選びから

①好きな音色をひとつ選びます。

- ▶パワースイッチをONの場合、音色セレクトスイッチが上にセットされている時は、BRASS 1が選ばれ、下にセットされているときは、BRASS 2が自動的に選ばれます。
- ▶いちどに2つ以上のボタンを押すとすこしでもあとに押した音色が選ばれます。

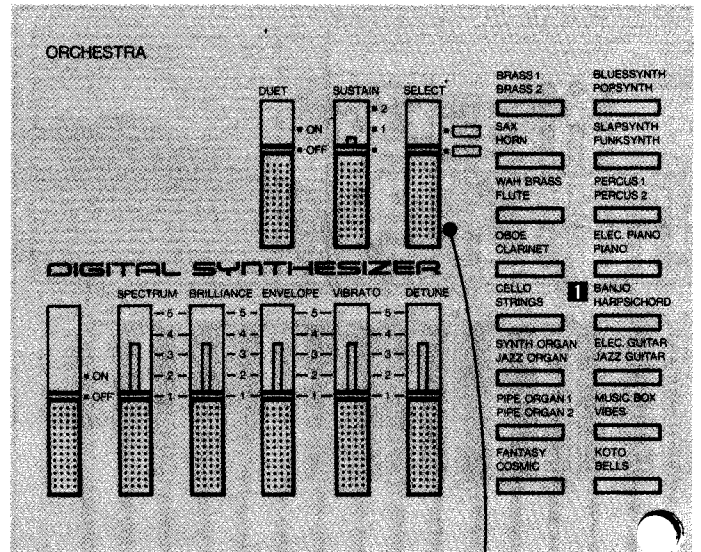
②鍵盤を押してみましょう。

- ▶選んだ音色がでましたね。



- ②いくつかの鍵盤を同時に押さえた時は、最大12音までとなります。ただし、デジタルシンセサイザーのONスイッチがONになっている時は、最大6音。さらにオートベースコードを使うと最大4音。さらにデュエットをONにすると2音となります。

- ★デジタルシンセサイザー → -6音
 - オートベースコード → -2音
 - デュエット → -2音
- と覚えましょう。



効果を加えてみましょう。

厚みのある音を出したいとき

デュエット

オートベースコード使用時→9ページ
オートベースコードで弾く場合だけ、デュエットをONにすると、メロディーの鍵盤の1音1音が2音のハーモニーになり、サウンドに広がりが出ます。

- ②ハーモニーとして加わる音は、音色セクターで選んだ音色です。
- ②同時に何鍵も押している場合は、その最高音に対してハーモニーが加わります。

上の段と下の段の音色選択はここで

ポータートーンは音色セクターの16個のボタンで、32音色が選ばれるようになっています。

シルバーの音色を選びたいときは、このスイッチを上セットし、ゴールドの音色を選びたいときは、下にセットしてください。

音に余韻をつけたいとき

サステイン

サステインをONにすると鍵盤から指を離した後も音が残り、自然に消えていく効果がえられます。

サステイン1→リバーブ風の響く感じのサステイン
サステイン2→通常の残響効果がえられます。

- ②サステインのかかりかたは、音色によって異なります。

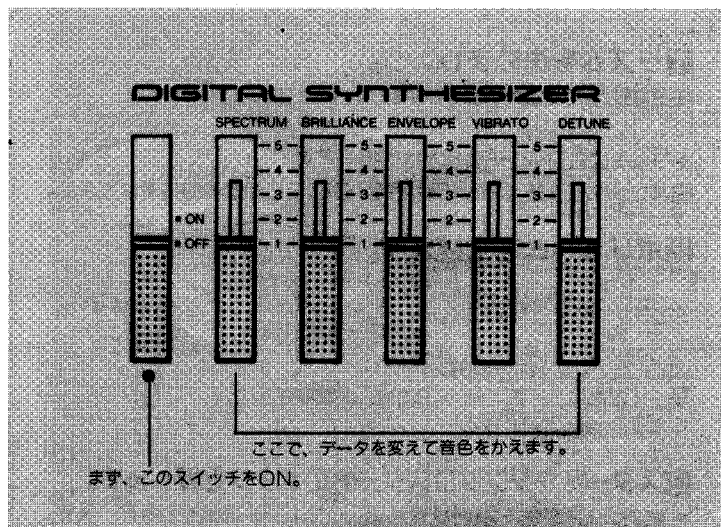
デジタルシンセサイザーで 音色を変えてみよう。

★デジタルシンセサイザーのONスイッチを入れるとその時の各モードにセットされた値に応じて、選ばれた音色にシンセサイザー効果がかかります。したがって、ONスイッチを入れただけでも音色は変わります。

☑デジタルシンセサイザーのONスイッチを入れると、オーケストラ音色の最大同時発音数は6音になります。

さらに、オートベースコードを使うと以下ようになります。

★コードパターンバリエーションが6・7の時は2音。
コードパターンバリエーションが6・7以外の時は4音。
さらにデュエットをオンにすると2音。



各モードのはたらき

スペクトラム SPECTRUM	音色の基本（土台）をつくります。
ブリリアンス BRILLIANCE	音色に輝きを与えたり、落ち着いた音を与えたりするはたらきをします。レベルをあげるにしたがって明るさが増します。
エンベロープ ENVELOPE	音の立ち上がり（アタックタイム）や減衰（ディケイタイム）のしかたを決めるはたらきをします。レベルを上げるほど音の変化が早い感じになります。 ▶アタックタイム……鍵盤を押さえてから音量が最大になるまでの時間 ▶ディケイタイム……鍵盤を押さえている間の音が消えるまでの時間
ビブラート VIBRATO	音をふるわせて、うるおいを与える効果（ビブラート）の深さを決めるものです。レベルをあげるにしたがって回転感が増します。
デチューン DETUNE	音程を故意にずらして、複数の楽器が合奏しているような幅のひろがりを与える効果の度合いを決めるものです。 例) : $A_3=440\text{Hz}$ のピッチに対して、 $A_3=443\text{Hz}$ のピッチの音色を出力する。

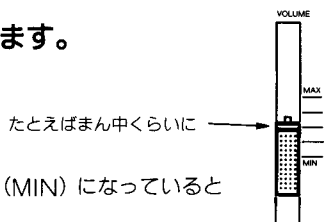
1 リズムを決めましょう。

好きなリズムをひとつ選びます。

★ワルツは3拍子、そのほかは4拍子です。

2 パワースイッチをONにした時はDISCOが自動的に選ばれます。

2 ボリュームを上げます。



2 リズムボリュームが最小 (MIN) になっているとリズムの音はでません。

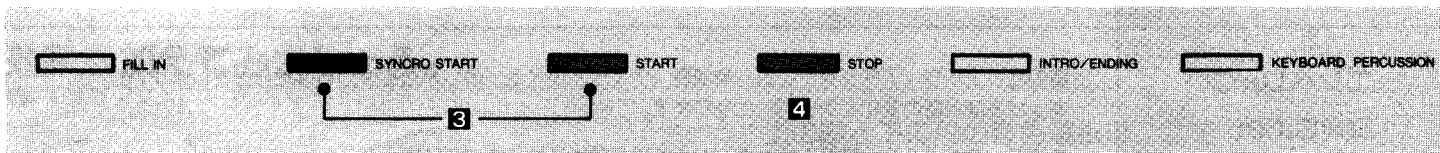
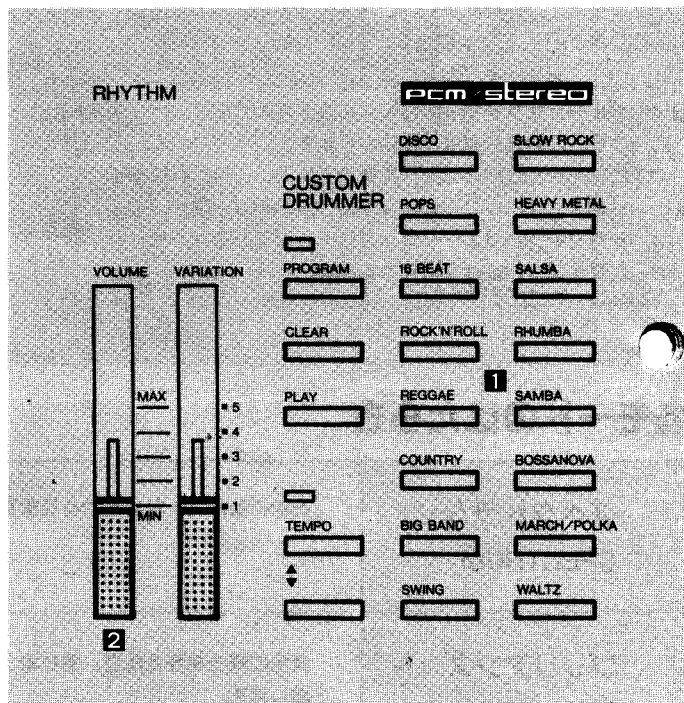
3 スタートかシンクロスタートのボタンを押します。

- ▶すぐにリズムをスタートしたい時は、スタートのボタンを押します。
- ▶オートベースコードを使っている時は、オートベースコード用鍵盤を押すと伴奏と同時にリズムをスタートできるシンクロスタートのボタンを押します。

★この他にイントロスタート、フィルインスタートがあります。→下記参照。

4 リズムを止めたい時は、ストップのボタンを押します。

★エンディングパターンでストップしたい場合は、INTRO/ENDINGのボタンを押すと2小節のエンディングパターンの後で自動的に止まります。



テンポの設定

▲のボタンを押すと1ステップごとにテンポが上がります。

▼のボタンを押すと1ステップごとにテンポがさがります。

可変幅は J = 40~280

▲と▼のボタンを両方押すと、テンポはJ = 120にセットされます。

テンポランプについて

▶4拍子のリズム：1拍目は明るく、3拍目は暗く点灯し、2・4拍目は消えます。

▶3拍子のリズム：1拍目は明るく、2拍目は暗く点灯し、3拍目は消えます。

バリエーションについて

▶ひとつのリズムに対して、5つのリズムパターンが選べます。いろいろ動かしながら、自分の好みのパターンを見つけましょう。

2 リズムバリエーションは、選ばれたリズムによって変化のしかたが違います。

イントロ/エンディング

▶スタート、シンクロスタートのかわりに、INTRO/ENDINGのボタンを押すと、2小節のイントロパターンでリズムがスタートします。

▶リズム演奏中に、INTRO/ENDINGのボタンを押すと、その次の小節から2小節のエンディングパターンとなり、リズムがストップします。

フィルイン

▶メロディーの切れ目など、必要な時にFILL INのボタンを押すと、その小節の終わりまで変則的なリズムに変わります。

〈フィルインで曲をスタート〉

▶フィルインで曲をスタートさせることもできます。まず、フィルインをONにしてから、リズムをスタートさせてください。

★フィルインを押し続けると、変則的なリズムが長く続きます。

★フィルインのパターンは、選んだリズムによって違います。

2 フィルインを押したあと、その小節内にもう一度押すと通常のリズムパターンに戻ります。

リズムパターンをつくりましょう。

①リズムをセット。(→6ページ)

好みのリズムをひとつ選び、つくりたいリズムに近いパターンをリズムバリエーションで選びます。

②プログラムのボタンを押します。

プログラムランプがついて、選んだリズムのパターンが鳴りだします。それから、打ち込みやすいテンポにセット。リズムボリュームを調節します。

③クリアのボタンを押します。

打楽器音が消えて、メトロノーム音のハイハットクローズが1拍ごとに鳴りだします。

★クリアを押さずに元のリズムパターンに打楽器音を重ねることもできます。

★特定の打楽器音だけを消す場合は、一番右側のキャンセルキーを押しながら、該当する打楽器の鍵盤を押します。

④好みの打ち方で、キーボードパーカッション用鍵盤を叩いてください。(→8ページ)

★リズムパターンは2小節をひとつのパターンとし16分音符までプログラムできます。

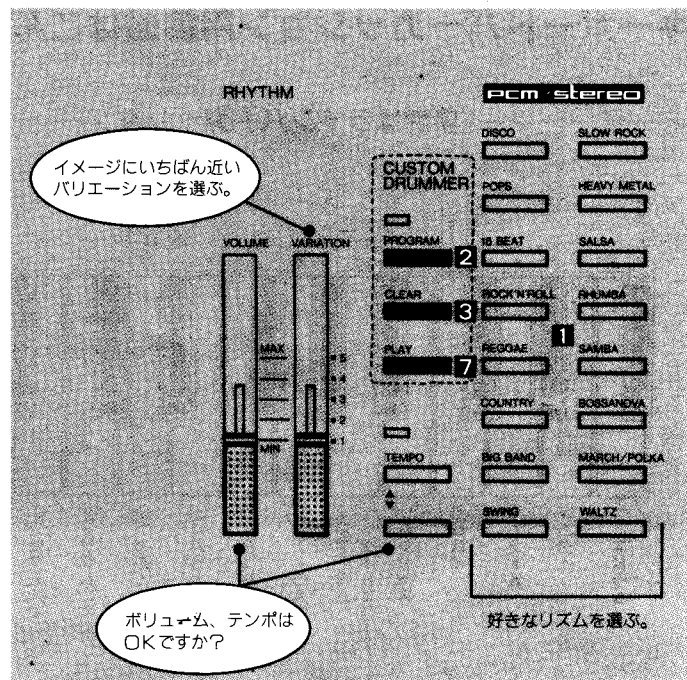
★プログラムに同時に入る打楽器音は、ハイハットクローズを除いて8種類です。

★メトロノーム音もいれたい場合は、ハイハットクローズの鍵盤を叩いてください。

⑤必要に応じてアクセントをつけてみましょう。

一番右側から2番目の鍵盤を押すとそのタイミングにあった音符にアクセントをつけることができます。

⑥リズムのストップボタンを押してプログラム終了。



⑦プレイのボタン押して、つくったりリズムパターンを聴いてみましょう。

②プレイをもういちど押すとリズムは止まります。つくったパターンは、パワースイッチを切るか、プログラムのボタンを押さない限り消えません。

★つくったリズムパターンを使ってオートベースコードで演奏することもできます。ただし、この時の伴奏パターンは基本としたリズムのパターンになります。

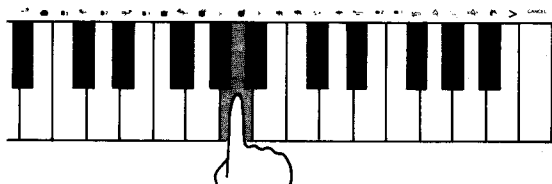
キーボードパーカッションで遊びましょう。

①キーボードパーカッション (KEYBOARD PERCUSSION) のボタンを押します。

KEYBOARD PERCUSSION

- ▶このボタンを押すとテンポランプが点灯します。
- ▶キーボードパーカッションを止める時はもう一度このボタンを押します。

②キーボードパーカッション用鍵盤をたたいてみましょう。



- ★音量はリズムボリュームで調節します。
- ★アクセントも使えます。アクセントキーを押さえながら好みの鍵盤を叩いてください。
- ▶キーボードパーカッションを使っている時は通常のリズムは使えません。
- ▶次ページに示した鍵盤から該当する打楽器音が発音されます。これ以外の鍵盤は普通に使い、たとえばオートベースコードのパターンに合わせて、キーボードパーカッションでリズムパターンを刻むことができます。
- ▶キーボードパーカッションのモード解除は、再びキーボードパーカッションのボタンを押すか、カスタムドラマーのプログラムのボタンをON。コードシーケンサーのレコードのボタンのONの時です。

キーボードパーカッション用鍵盤はこんな内容です。

黒鍵はラテンパーカッション

コンガロー、コンガハイ、ボンゴロー、ボンゴハイ、クイーカロー、クイーカハイ、カウベル、アゴゴロー、アゴゴハイ、クラバス、ハンドクラップ

白鍵はドラムス

ベースドラム、タムロー、タムミドル、タムハイ、リムショット、ゲートエコー、スネアドラム、スネアドラムライト、ハイハットクローズ、ハイハットオープン、シンバル、シンセタムミドル、シンセタムハイ、トライアングルオープン、トライアングルクローズ

アクセント
リズムの特定の部分を強く出したいときにつかいます。プログラム中に強調させたい場所にきたら、このアクセントの鍵盤を押してください。その部分の打楽器音だけ、強い音になります。

キャンセル
特定の打楽器の音だけ消したいときにつかいます。プログラム中に、キャンセルの鍵盤をおさえながら消したい打楽器音の鍵盤を押すと、その打楽器の音だけ消されます。

まずは簡単なディスコのリズムに挑戦！

ハイハット クローズ (アクセント) ハイハットオープン (アクセント)

ハイハット

スネアドラム

バスドラム

ハンドクラップ

1小節目 2小節目

▶ ディスコのリズムを選んでからスタートします。テンポランプで小節のはじまりを確認し、メトロノームの音で拍数を確認しながらたたきましょう。

▶ メトロノームの1音の間隔は1拍(♩)、つまり“チツ・チツ・チツ・チツ”と4回鳴って1小節です。プログラムは2小節をひとつのパターンとして記憶されますから、その間にテンポランプは明るい点灯が2回点灯、カウントは8回鳴ることになります。

▶ ポータトーンのリズムには、 $\frac{3}{4}$ ・ $\frac{4}{4}$ ・ $\frac{6}{8}$ 拍子の3種類があります。カスタムドラマーのリズムパターンは選んだリズムがもともになるので、ワルツで4拍子のパターン、 $\frac{3}{4}$ 拍子で8ビートのパターンなど、“そのリズムからはつくれないパターン”というのがあります。

$\frac{12}{8}$	ビッグバンド、スウィング、スローロック
$\frac{4}{4}$	ディスコ、ポップス、ロックンロール、サルサ、サンバ、マーチ/ポルカ、16ビート、カントリー、ルンバ、ボサバ、レゲエ、ヘビーメタル
$\frac{3}{4}$	ワルツ

1 モードを決める。

▶モードセレクターのレバーでモードを選んでください。

▶各モードの説明は右下で説明しています。

2 オートベースコードのボリュームを上げます。

▶このボリュームが最小 (MIN) になっていると伴奏の音がでません。

3 モードでシングルフィンガーまたはフィンガードを選んだ場合は、リズムの各セッティングをおこない、シンクロスタートのボタンを押さえます。

★スタートの方法はこの他に、リズムの時のスタート (イントロ、フィルイン、普通のスタート) がすべて可能ですので、お試しください。

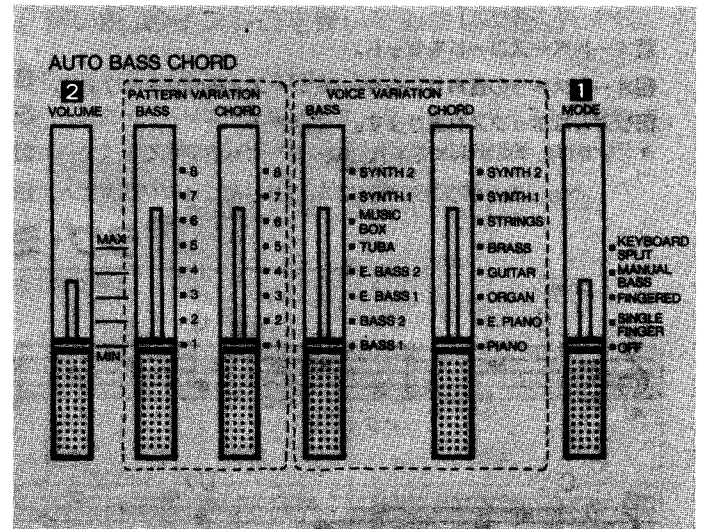
4 オートベースコード用鍵盤を押さえて演奏をスタートしましょう。

▶コードパターンとベースパターンがリズムにのってでできます。



NOTE:

- ▶オートベースコード使用時はメロディー部の最高同時発音数は8音になります。
- ▶シングルフィンガー、フィンガードの演奏中は、手を離しても同じ伴奏が繰り返されるメモリー機能がはたらきます。コードが変わるときのみ鍵盤を押さえるようにしてください。
- ▶オートベースコードの音色は、ボイスバリエーション (VOICE VARIATION) で選ばれた音色になります。
- ▶伴奏を止める時は、リズムのストップ同様、ストップのボタンで止めるかエンディングパターンで止めてください。
- ▶シングルフィンガーコードは4タイプ、フィンガードコードは7タイプ検出可能です。検出できないコードは最低音をベースとして演奏されます。(→12ページ)



〈各モードの説明〉

▶シングルフィンガー

簡易型の和音 (コード) の押さえ方で自動伴奏できるモード。(→10ページ)

▶フィンガード

通常の和音 (コード) の押え方で自動伴奏できるモード。(→12ページ)

▶マニュアルベース

オートベースコード用鍵盤部からベースボイスバリエーションで選ばれたベース音をだすモード。(→11ページ)

▶キーボードスプリット

オートベースコード鍵盤部をコードボイスバリエーションで選ばれた音色をだすモード。(→11ページ)

伴奏のパターンを変えたいときは……

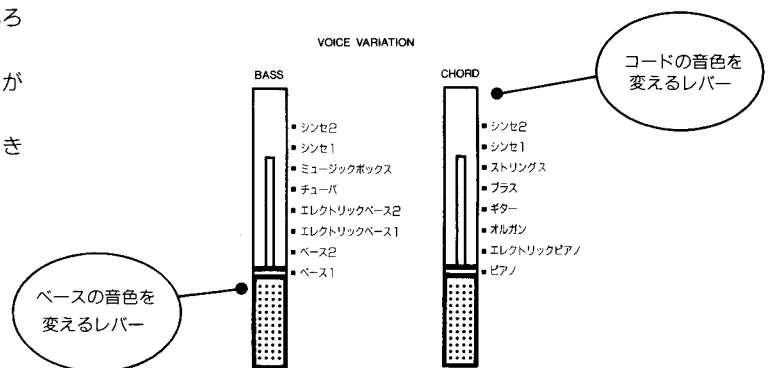
パターンバリエーション

- ▶パターンバリエーションを動かすと、伴奏のパターンが変わります。左がベース、右がコードのパターンを変えるレバーです。いろいろ動かしてイメージにあったパターンをみつけましょう。
- ▶パターンバリエーションは、選んだリズムによって変化のしかたが違います。
- ★コードパターンバリエーションのBは、自分でコードパターンをきざみたい場合に使います。

伴奏の音色を変えたいときは……

ボイスバリエーション

- ▶ボイスバリエーションを動かすと伴奏に出てくる音色が変わります。



シングルフィンガーまたはフィンガードで「ラブ・ミー・テンダー」を弾いてみましょう。

(9ページの通りに)

- ❶ オートベースコードをセット。
- ❷ オーケストラの音声セクターは、ジャズオルガンを選びます。
- ❸ リズムはポップスを選びます。
- ★ テンポは、ややスローに。
- ❹ シンクロースタートを押します。
- ❺ なれてきたら、DUET ONのところからデュエットを入れると、後半のサウンドがグッと盛りあがります。

ラブ・ミー・テンダー

作詞・作曲/E.Presley & V.Matson

POPS

JAZZ ORGAN

DUET ON

日本音楽著作権協会(出) 許諾第8761872-701号

©1956 by ELVIS PRESLEY Music, inc.
Rights for Japan assigned to CHAPPEL/INTERSONG K.K.

★シングルフィンガーコードのおさえ方

シングルフィンガーコードのだし方

シングルフィンガーコードについて

次の図は、オートベースコード用鍵盤をおす位置と、でてくる和音の関係を示したものです。

#、bのついているコードのだし方

#がついていたら、上の図で説明した位置の右の上の黒鍵、bがついていたら左上の黒鍵をおせば、#・bのついたコードがだせます。

セブンスコード、マイナーコードのだし方

アルファベット1文字のコード(C、Dなど)をメジャーコードといいます。伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば(G7)のようなセブンスコード、(Am)のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時におすことができます。

自分でベース音を弾きたくなる曲もあります。

マニュアルベース

オートベースコードのモードをマニュアルベースにセットすると、オートベースコード用鍵盤の部分が、ベース音になります。

〈「青い影」のイントロを弾いてみましょう。〉

- ❶モードをマニュアルベースにセット。
- ❷ベースボイスバリエーションは、エレクトリックベース1を選びます。
- ❸オーケストラの音色セレクターは、パイプオルガンを選びます。
- ❹ポップスのリズムにあわせて、スローテンポで弾きましょう。

青い影

作曲: K.Reid & G.Brooker

The musical score for 'Blue Shadow' is presented in two systems. The first system shows the first four measures with chords C, Am, F, and Dm. The second system shows the next four measures with chords G, Em, C, F, and G. The piano part is in the upper staff, and the bass part is in the lower staff. The key signature is one flat (B-flat major / D minor) and the time signature is common time (C).

日本音楽著作権協会(出)許諾第8761872-701号

©1967 by WESTMINSTER MUSIC LTD., London, England Rights for Japan controlled by TRO Essex Japan Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only

伴奏を自分で弾くときは、右手と左手の音色を変えることもできます。

キーボードスプリット

オートベースコードのモードをキーボードスプリットにセットすると、オートベースコード用鍵盤の部分が1オクターブ上がり、コードボイスバリエーションの音色に変わります。

〈「輝きながら…」を、リズムなしで静かに弾くと…。〉

- ❶モードをキーボードスプリットにセット。
- ❷コードボイスバリエーションは、シンセ2を選びます。
- ❸オーケストラの音色セレクターは、フルートを選びます。

輝きながら……

作詞: 大津あきら 作曲: 鈴木キサブロー

The musical score for 'Shining While...' includes a vocal line and piano/bass accompaniment. The lyrics are: 'すがおにーメロデー やきつけてきみはいま' and 'かがやきーながら おとなのードアをあけて'. The piano part is in the upper staff, and the bass part is in the lower staff. The key signature is one flat and the time signature is common time.

日本音楽著作権協会(出)許諾第8761872-701号 ©1987 by J・C・M

お詫びと訂正

取扱説明書 本文中に誤りがありました。

お詫びして訂正致します。

コード早見表

フィンガードコード表

セブンスコード F₇

誤



正



コード早見表

■シングルフィンガーコード表

■フィンガーコード表

※は回転型、他は基本型です。

メジャーコード	マイナーコード
C	Cm
D'(C')	D'm (C'm)
D	Dm
E'(D')	E'm (D'm)
E	Em
F	Fm
F'(G')	F'm (G'm)
G	Gm
A'(G')	A'm (G'm)
A	Am
B'(A')	B'm (A'm)
B	Bm

セブンスコード	マイナーセブンスコード
C7	Cm7
D7 (C7)	D'm7 (C'm7)
D7	Dm7
E7 (D7)	E'm7 (D'm7)
E7	Em7
F7	Fm7
F7 (G7)	F'm7 (G'm7)
G7	Gm7
A7 (G7)	A'm7 (G'm7)
A7	Am7
B7 (A7)	B'm7 (A'm7)
B7	Bm7

メジャーコード	マイナーコード	セブンスコード
C	Cm	C7
D'(C')	D'm (C'm)	D7 (C7)
D	Dm	D7
E'(D')	E'm (D'm)	E7 (D7)
E	Em	E7
F	Fm	F7
F'(G')	F'm (G'm)	F7 (G7)
G	Gm	G7
A'(G')	A'm (G'm)	A7 (G7)
A	Am	A7 *
B'(A')	B'm (A'm)	B7 (A7) *
B	Bm	B7 *

マイナーセブンスコード	メジャーセブンスコード	マイナーセブンスフラットドフィフスコード	セブンスサス・フォーコード
Cm7	Cmaj7	Cm7 ⁻⁵	C7sus4
D'm7 (C'm7)	D'maj7 (C'maj7)	D'm7 ⁻⁵ (C'm7 ⁻⁵)	D7sus4 (C7sus4)
Dm7	Dmaj7	Dm7 ⁻⁵	D7sus4
E'm7 (D'm7)	E'maj7 (D'maj7)	E'm7 ⁻⁵ (D'm7 ⁻⁵)	E7sus4 (D7sus4)
Em7	Emaj7	Em7 ⁻⁵	E7sus4
Fm7	Fmaj7	Fm7 ⁻⁵	F7sus4
F'm7 (G'm7)	F'maj7 (G'maj7)	F'm7 ⁻⁵ (G'm7 ⁻⁵)	F7sus4 (G7sus4)
Gm7	Gmaj7	Gm7 ⁻⁵	G7sus4
A'm7 (G'm7)	A'maj7 (G'maj7) *	A'm7 ⁻⁵ (G'm7 ⁻⁵)	A7sus4 (G7sus4)
Am7 *	Amaj7 *	Am7 ⁻⁵ *	A7sus4 *
B'm7 (A'm7) *	B'maj7 (A'maj7) *	B'm7 ⁻⁵ (A'm7 ⁻⁵) *	B7sus4 (A7sus4) *
Bm7 *	Bmaj7 *	Bm7 ⁻⁵ *	B7sus4 *

1 オートベースコードのセッティングの要領で、リズムやモードなどをセットしてください。

モードをフィンガードにするとフィンガードコードでコード進行を記録できます。その他のモードの場合は、すべてシングルフィンガーコードで記録します。

2 コードシーケンサーが記録するのは、コード進行の演奏データと選んだリズムです。記録中のリズムの変更も記録します。お試しください。

2 レコードのボタンを押します。

レコードのボタンを押すと、ランプが点灯し、メトロノーム音が1拍ごとに発音されます。さらにテンポランプが点滅してレコードスタンバイ状態になり、オートベースコード用鍵盤が押されるのを待つ状態になります。

3 オートベースコード用鍵盤でコードを押さえます。

レコードがスタートします。鍵盤でコードを押さえてコード進行を記録してください。

★次の方法でもレコードがスタートします。

- ・リズムのスタートボタンをON。
- ・イントロ・エンディングのボタンをON。

ただし、コード進行はオートベースコード用鍵盤を押さえない限り、記録できません。

4 レコードのボタンを押して記録をストップします。

★この他に、次の操作でも記録を止めることができます。

- ・リズムのストップボタンをON。
- ・イントロ・エンディングのボタンをON。

★レコード中にシンクロスタートのボタンを押しますと、レコードをはじめからやり直すことができます。

メモリーがフルになると自動的にレコードが止まります。

5 プレイのボタンを押します。

プレイのボタンを押すと、テンポランプが点滅して、再生待ちの状態になります。

6 鍵盤をひとつ押して再生をスタートしましょう。

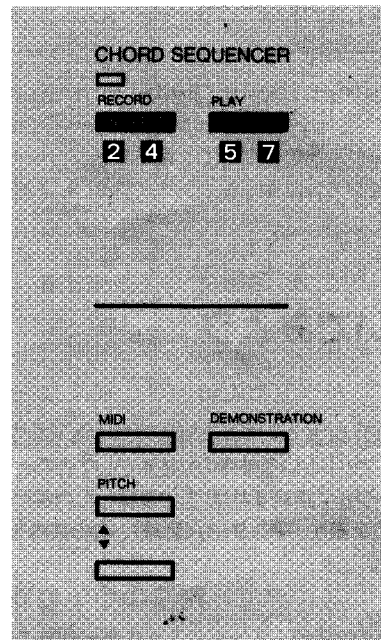
押す鍵盤は、オートベースコード用鍵盤に限らず、どの鍵盤でもOKです。

- ★再生されるコード進行にあわせてメロディーを弾いてみましょう。
- ★この他にもリズムのスタートボタンで再生をスタートすることもできます。

7 プレイを押して再生をストップさせます。

★この他にリズムのストップを押しても再生を止めることができます。

2 レコードデータがなくなっても自動的に再生がとまります。しかし再生のモードは解除されなく、再生待ち状態となるため、6の操作で再生を再びスタートさせることができます。



NOTE :

- ▶最大コードメモリー数は約100コードです。
- ▶再生中にシンクロスタートのボタンを押しますと、再生をはじめからやり直すことができます。6の操作で再生をスタートしてください。
- ▶再生中にリズムパターンやベースやコードの音色、パターンを変えてイメージに近いコード進行をつくってみましょう。ただし、リズムパターンを何種類か記録した際は、その記録されたポジションになると記録したリズムパターンが優先して鳴ります。

MIDIについて

ポータートーンPSR-36は、MIDI規格のオールデジタルキーボード。MIDI端子を使って多彩なプレイが楽しめます。

What's MIDI?

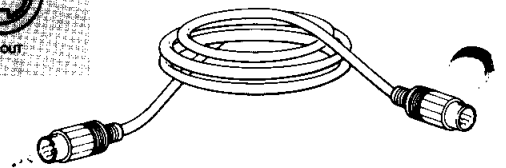
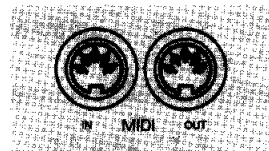
MIDI (ミディ) はMusical Instrument Digital Interface (ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェース)の略で、日本語にすると「楽器間デジタル通信」。つまり、電子楽器どうし(またはコンピュータ)が、うまくコミュニケーションをとりあい、その演奏

情報を互いに交換するためのもの。そして、このMIDIは世界の電子楽器の統一規格。どこのメーカーの製品でもMIDI端子がついていれば、情報交換をすることができます。

ともかく、つないでみよう

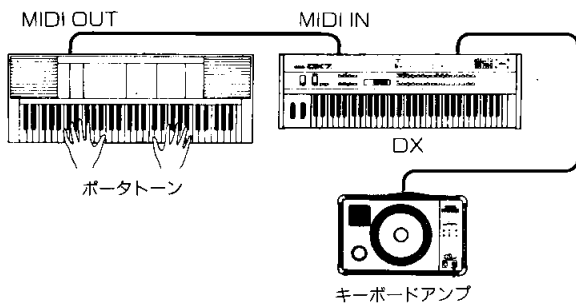
●接続のしかた

MIDI端子は、その名のとおりMIDI OUTが演奏情報の出力、MIDI INが入力に使う端子です。そこで、①という楽器のMIDI OUTと②という楽器のMIDI INをMIDIケーブルで接続すれば、①で演奏した内容が②に送られるわけです。この①の楽器を「マスター」(親機)、②の楽器を「スレーブ」(子機)と呼びます。



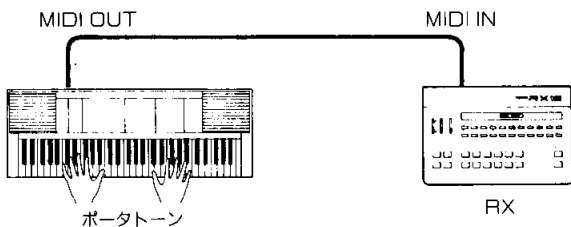
接続に使うMIDIケーブル

●デジタルシンセサイザーDXとの接続



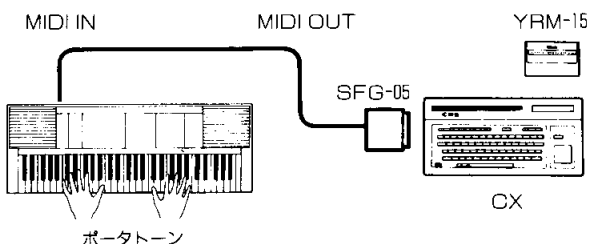
左の図のように、ポータートーンのMIDI OUTとDXのMIDI INを接続すれば、ポータートーンで演奏するだけでDXからも音をだすことができます。つまり、どの鍵盤を押さえたか(キーノート)などの情報が瞬時にDXに伝えられ、ユニゾンで演奏させるのです。この時、ポータートーンのオーケストラ音色セレクターで音色を変更すると、DXの音色も連動して変わりますので、音色をうまく組み合わせ、厚みのあるサウンドを創りだすことができます。また、DXのMIDI OUTとポータートーンのMIDI INを接続すれば、DXを演奏してポータートーンを鳴らすことができます。

●リズムマシンRXとプレイ

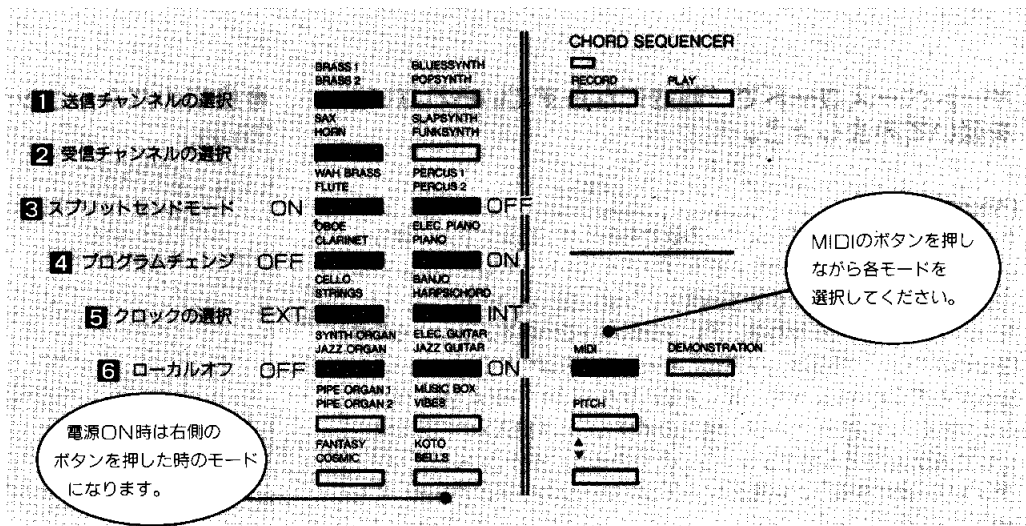


ポータートーンのリズムもPCM音源だけあってなかなかの迫力ですが、もっとラテンっぽいリズムの華やかな曲を雰囲気を出して演奏したいとか、曲の途中でドラムソロを入れたい、なんていうときは、リズムマシンRXと図のように接続。あらかじめドラムパートをメモリーさせておき、ポータートーンのリズムとあわせてツインドラムで楽しむことができます。

●パソコンでポータートーン自動伴奏



自分でプレイするかわりに、パソコンでポータートーンに演奏させるという楽しみ方もできます。たとえばヤマハMSXパソコンGXシリーズには、ミュージックコンポーザー(YRM-15)という音楽入力ソフトがありますので、これを使って、演奏させたい曲を打ち込むだけ。ポータートーンが自動演奏してくれます。音色は、曲のイメージにあわせて自由に選べます。



PSR-36 MIDIモード設定

MIDIのボタンを押しながら音色セレクターの該当するボタンを押すと各モードがセットされます。尚、リズムがスタートしている状態、または、シンクロ待機状態ではMIDIモードは機能しませんのでご注意ください。

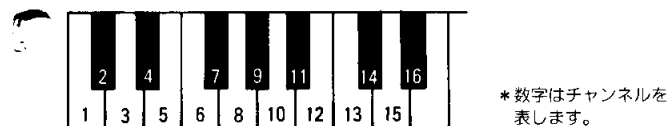
1 2送・受信チャンネルの選択

▶PSR-36を送信側で使う場合は送信チャンネルをセットすることができます。まず、MIDIのボタンを押しながらプラス1/プラス2のボタンを押して送信選択モードにします。その後、MIDIボタンを押しながら左端の鍵盤、16鍵のいずれかを押します。

▶PSR-36を受信側で使う場合は受信チャンネルをセットすることができます。まず、MIDIのボタンを押しながらサクソフ/ホルンのボタンを押して受信選択モードにします。その後、MIDIボタンを押しながら左端の鍵盤、16鍵のいずれかを押します。

●電源ON時は、送信チャンネルは1チャンネルにセットされ、受信チャンネルはすべてのチャンネルを受信するオムニオンにセットされます。

★送信・受信チャンネルの指定に使う鍵盤は次の左端16鍵です。



3 スプリットセンドモード

▶このモードにするとオートベースコード使用時(シングルフィンガー、フィンガード、キーボードスプリット、マニュアルベース)のオートベースコード用鍵盤の鍵盤情報を2チャンネルで送信します。そのため、左の伴奏の鍵盤情報がある音源モジュールなどで鳴らし、右のオーケストラ音色を別チャンネルで鳴らすことができます。操作は、MIDIボタンを押しながら、ワウプラス/フルートのボタンを押せばOK。このモードを解除する場合は、MIDIボタンを押しながら反対側のパークス1/パークス2のボタンを押します。

●このモードはオートベースコードを使用している時にのみ有効です。

4 プログラムチェンジ

▶このモードは、音色、リズムの変更情報を送・受信するかどうかというものです。電源ON時は、オンの状態です。これをオフにしたい場合は、MIDIボタンを押しながらオーボエ/クラリネットのボタンを押してください。

また、オンにする場合は、MIDIボタンを押しながら、反対側のエレクトリックピアノ/ピアノのボタンを押します。

5 クロックの選択

▶テンポを同期させるために送・受信されるもので、リズム機能付きの楽器から、4分音符ひとつにつき24個の割合で“F 8H”が発信されます。この信号を送るか(内部同期モード=INT)、受信するか(外部同期モード=EXT)の設定をおこなうのが、このモードです。電源ON時は、INTにセットされています。これをEXTにしたい場合は、MIDIのボタンを押しながら、チェロ/ストリングスのボタンを押してください。

また、INTにする場合は、MIDIのボタンを押しながら、反対側のバンジョー/ハーブシコードのボタンを押してください。

6 ローカルオフ

▶ローカルオフとは、鍵盤と音源を分離するモードです。このモードをセットすると、鍵盤を弾いても本体からは音が出ず、受信側で音を出すことができます。本体の音源をカットして音源モジュールの音のみを出したいときなどにセットしてください。

電源ON時は、ローカルオンにセットされていますので、本体から音がでます。これをオフにしたい場合は、MIDIのボタンを押しながら、シンセオルガン/ジャズオルガンのボタンを押してください。

また、これをオンにしたい場合は、MIDIボタンを押しながら反対側のエレクトリックギター/ジャズギターのボタンを押してください。

電源ON時のモード設定

送信チャンネル	1チャンネル
受信チャンネル	オムニオン
スプリットセンドモード	OFF
プログラムチェンジ	ON
クロック	INT
ローカルコントロール	ON

LET'S PLAY

オートベースコードで「好きにならずにいられない」を弾いてみましょう。

Playing Note

もともとはエルビス・プレスリーの歌で有名になった曲ですが、最近、コリー・ハートが、この曲をとりあげリバイバルヒットしました。ここでは、コリーのレコードを参考に譜面にしました。レコードでは、バックにドラムやベースを使わないアレンジになっています。もし、その雰囲気演奏したい場合は、リズムとオートベースコードのボリュームをMINにしてください。また、曲にメリハリをつけたい時は、**△**ではリズムをMINにしてオートベースコードのボリュームをMAXの5分の1位にして、**□**から両方ともボリュームの5分の4位にするといいでしょう。プレスリー風に演奏したい場合は、スローロックのリズムでお試ください。

●最初のパネルセッティング

リズム	
リズムセクター	ポップス
テンポ	J=76(J=120より▼を10回オン)
ボリューム	MAXの5分の4
バリエーション	バリエーション1
オートベースコード	
モード	シングルフィンガーまたはフィンガード
ボリューム	MAXの5分の4
ベースパターン	ベースバリエーション4
コードパターン	コードバリエーション1
ベースボイス	ベース1
コードボイス	ギター
オーケストラ	
音色セクター	エレクトリックピアノ
サステイン	サステイン2
デジタルシンセサイザー	すべてにしてON

CAN'T HELP FALLING IN LOVE 好きにならずにいられない

G.Weiss・H.Peretti・L.Creatore作詞・作曲

A C C Em Am

Wise men say on-ly

1. シンクロスタート

F C G7 F G7 Am F

fools rush in But i can't help Fal-lin' in

C G7 C **B** C Em Am

love with you Shall I stay Or would it

F C G7 F G7 Am F

be a sin For I can't help Fal-lin' in

C G7 C [C] Em A Em A

love with you Like a ri-ver'flows sur-ely to the sea

Em A Dm G7 [D] C Em

Dar-lin' so it goes Something were meant to be Wise men

Am F C G7 F G7

say that on-ly fools rush in But I can't

Am F C G7 C

help Fal-lin' in love with you

↑ イントロ・エンディングオン

リズムパターンの実例

実際の曲に使われているリズムパターンを紹介し、カスタムドラマー（7ページ）をつかって自分だけのリズムパターンをつくる際の参考にしてください。

ドラムスとパーカッションの記譜のしかた

Dr. (ドラムス)

Per. (ラテンパーカッション)

バスドラム、タムロウ、スネアドラム (リムショット)、タムミドル、タムハイ、ハイハットクローズ、ハイハットオープン

コンガハイ、コンガロウ (パーカッションは楽器名を記入します。)

ライク・ア・バージン

リズムセクターは **ディスコ**

Dr.

NOTE :
マドンナの「ライク・ア・バージン」のパターン。このようにベースを8分音符で刻むと、なんとなくニューウェーブという感じになります。

スリラー

リズムセクターは **ディスコ**

Dr.

Per.

コンガハイ、コンガロウ

NOTE :
マイケル・ジャクソンの世界的ヒット。ディスコのリズムが基本ですが、ハイハットの独特なビートが、この曲らしさを出しています。

スウィートメモリーズ

リズムセクターは **スローロック**

Dr.

リムショット (またはスネアドラム)

NOTE :
おなじみ松田聖子のヒット曲。スローロックの変形で、バスドラムのたたき方に特徴があります。

素顔のままで

リズムセクターは **ポップス**

Dr.

アクセント

NOTE :
ビリー・ジョエルのなつかしいデビュー曲。8ビートでありながら、ラテン的な雰囲気をもつパターンです。

故障と誤りやすい現象

現象	原因	処置
パワースイッチを入れたとき、ポツンと音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
パイロットランプが暗くなったり、誤動作が起きたりする。	電池がなくなりかけているため。	すべて新しい電池と交換してください。
オートベースコード用鍵盤の部分だけオーケストラで選んだ音色が出ない。	オートベースコードのモードのレバーが、OFF以外の位置にあるため。	モードのレバーをOFFにしてください。
デュエットの音が出ない。	オートベースコードのモードのレバーが、シングルフィンガーかフィンガードの位置にセットされていないため。	4ページのデュエットの説明をお読みください。
リズムの音が出ない。	①リズムボリュームが最小(MIN)になっているため。 ②スタート、またはシンクロスタートのボタンを押していないため。 ③シンクロスタートのボタンを押して、オートベースコード用鍵盤を押していないため。	6ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
カスタムドラマーの音が出ない。	リズムボリュームが最小(MIN)になっているため。	リズムボリュームを上げてください。
プログラム中に、カスタムドラマーの音が出なくなった。	プログラムにはいる打楽器音の数(ハイハットクローズを除く8種類までの数)をオーバーしているため。	7ページの説明をお読みください。
プログラムにいれたリズムパターンが消えてしまった。	パワースイッチをOFFにしたため。	一度消えたプログラムは呼びもどすことはできません。7ページの説明をお読みください。
オートベースコードの音が出ない。	①オートベースコード用鍵盤を押さえていないため。 ②オートベースコードボリュームが最小(MIN)になっているため。	①9ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 ②オートベースコードのボリュームを上げてください。
オートベースコードで伴奏しているとき、押さえても思ったとおりのコードが出ない。	①オートベースコード用鍵盤から、いったん指を離さずに弾いているため。 ②シングルフィンガーのモードでフィンガードコードの押え方をしている、あるいはその反対のため。	①コードを変えるときは、いちど鍵盤から指を離すようにしてください。 ②シングルフィンガーとフィンガードでは、押えかたが違います。
オートベースコード用鍵盤のところだけ1オクターブ高く発音される。	オートベースコードのモードのレバーが、キーボードスプリットの位置にあるため。	モードをOFFにしてください。
受信側のキーボードのリズムが同期しない。	受信側のクロックがEXTに、送信側がINTになっていないため。	受信側のクロックをEXTに、送信側をINTにしてください。
スプリットセンドモードで、オートベースコード情報を送信したが受信しない。	受信側の受信チャンネルが2チャンネルになっていないため。	受信側の受信チャンネルを2チャンネルにしてください。
コードシーケンサーの再生が記録した時と違う。	コードシーケンサーが記録するのは、コード進行とリズムセレクターのみで、他は記録しません。	記録時と同じセッティングまたはスタート方法で再生してください。

仕様とオプション

■鍵盤

一段鍵盤61鍵 (C₁~C₆)

■オーケストラ

〈音色セクター〉

- プラス1/プラス2
- サクソス/ホルン
- ワウプラス/フルート
- オーボエ/クラリネット
- チェロ/ストリングス
- シンセオルガン/ジャズオルガン
- パイプオルガン1/パイプオルガン2
- ファンタジー/コズミック
- ブルースシンセ/ポップシンセ
- スラップシンセ/ファンクシンセ
- パーカス1/パーカス2
- エレクトリックピアノ/ピアノ
- バンジョー/ハーブシコード
- エレクトリックギター/ジャズギター
- ミュージックボックス/パイプス
- コト/ベルズ

音色セレクトスイッチ

サステイン

デュエット

〈デジタルシンセサイザー部〉

- デジタルシンセサイザーオンスイッチ
- スペクトラム
- プリリアンス
- エンベローブ
- ビブラート
- デチューン

■リズム

〈リズムセクター〉

- ディスコ
- ポップス
- 16ビート
- ロックンロール

- レゲエ
- カントリー
- ビッグバンド
- スウィング
- スローロック
- ヘビーメタル
- サルサ
- ルンバ
- サンバ
- ボサノバ
- マーチ/ポルカ
- ワルツ

- リズムボリューム
- リズムバリエーション
- テンポ ▲/▼
- テンポランプ
- フィルイン
- シンクロススタート
- スタート
- ストップ
- イントロ/エンディング

■カスタムドラマー

- プログラム
- プログラムランプ
- クリア
- プレイ
- キーボードパーカッション

■オートベースコード

- オートベースコードボリューム
- ベースパターンバリエーション
- コードパターンバリエーション
- ベースボイスバリエーション
- コードボイスバリエーション
- モードセクター

■コードシーケンサー

- レコード
- レコードランプ
- プレイ

■その他のコントロール

- パワースイッチ
- パイロットランプ
- マスターボリューム
- ピッチ ▲/▼
- MIDI
- デモンストレーション

■メインアンプ

5.0W×2

■スピーカー

12.0cm (4Ω) ×2

■定格電源

DC9V: 単1乾電池6個
電源アダプター (PA-4)

■消費電力

電源アダプター使用時/6.5W
乾電池使用時/2.7W
(電池寿命: 通常演奏で連続15時間以上)

■付属端子

- MIDI (IN OUT) JACK
- EXP. PEDAL JACK
- AUX. OUT (L, R) JACK
- DC (9-12V) IN JACK
- HEADPHONES JACK

■寸法・外装

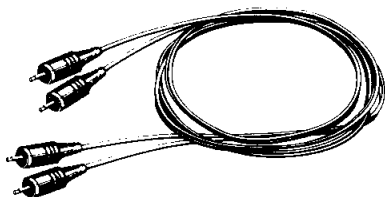
本体材質: スチロール樹脂
間口: 913mm
奥行: 331mm
高さ: 97mm
重量: 6.8kg

■付属品

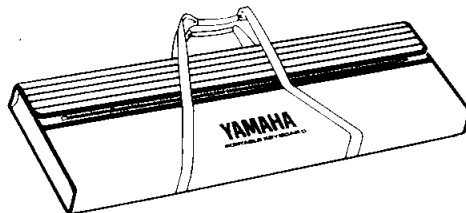
電源アダプター (PA-4)
譜面立て

●オプション(別売付属品)

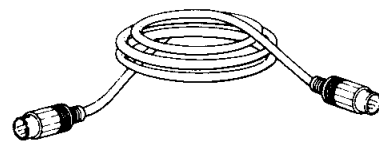
- 接続コード(PSC-3)(ステレオ)
¥1,000



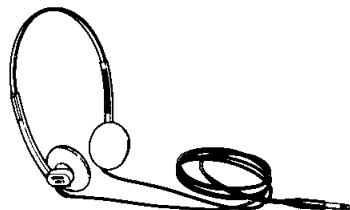
- 専用ソフトケース(SCC-12)
¥6,000



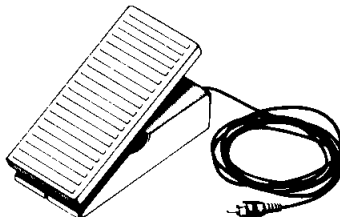
- MIDIケーブル(MIDI-03)
¥1,000



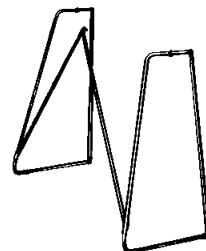
- ステレオヘッドホン(HPE-3)
¥3,000



- エクスプレッションペダル(EP-1)
¥2,400



- スタンド(L-2)
¥6,000



PORTATONE PSR-36 MIDIインプリメンテーションチャート

MODEL PSR-36

DATE:12/09 1987
VERSION:1.0

ファンクション	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能 1 1-16	1 1-16	
モード	電源ON時 メッセージ モード3 ×	モード1 オムニ オン、オムニ オフ ポリ、モノ (M=1)	
ノート ナンバー	音域 30-102 *****	36-96 36-96	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ × 9 nH, v=64 × 9 nH, v=0	× ×	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別 × ×	× ×	
ピッチベンダー	×	×	
64 コントロール チェンジ	○	○	サステイン
プログラム チェンジ	設定可能範囲 ○ 0-31 *****	○ 0-127 0-31	
エクスクルーシブ	×	×	
ユー ン	ソングポジション ソングセレクト チューン × × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド ○ ○	○ ○	
その他	ローカル オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット × × ○ ×	○ ○ (122-127) ○ ○	
備考			

モード1:オムニ オン、ポリ モード2:オムニ オン、モノ
モード3:オムニ オフ、ポリ モード4:オムニ オフ、モノ

○:あり
×:なし

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

●本機の保証は、保証書によりご購入から満1年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。

(日本国内のみ有効)

●保証期間の1年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か下記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障と誤りやすい現象”の項をいま一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けまますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで休間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですます。)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.025-243-4322
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ髙松店内 TEL.0878-51-7777.22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ髙松名古屋流通センター TEL.052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL.011-781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022-236-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-6711
(本社) 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-1158

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

本 社

シングルキーボード事業部 / 〒403 浜松市中沢町10-1

TEL.0534(60)3275

東京営業所 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル

TEL.03(572)3130

東京特販営業所 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル

TEL.03(572)3130

大阪営業所 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館

TEL.06(252)7491

名古屋営業所 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28

TEL.052(201)5150

九州営業所 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL.092(472)2152

北海道営業所 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター

TEL.011(512)6113

仙台営業所 / 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル

TEL.022(222)6141

広島営業所 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18

TEL.082(244)3749

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693005897